本書は、Orbit20の取扱説明書です。

目次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第1章 | 導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 |
|  | 第1節 | ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 |
|  | 第2節 | 制限事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 |
|  | 第3節 | 保証について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 |
|  | 第4節 | 安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 5 |
|  | 第5節 | ユーザー登録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8 |
|  | 第6節 | サポートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8 |
| 第2章 | 各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9 |
|  | 第1節 | 背面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9 |
|  | 第2節 | 上面に配置されたキー・・・・・・・・・・・・・・ | 10 |
|  | 第3節 | 点字のマスと表示移動キー・・・・・・・・・・ | 11 |
| 第3章 | 読みモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 12 |
|  | 第1節 | 電源投入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 12 |
|  | 第2節 | モード切替・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 12 |
|  | 第3節 | 読み方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 12 |
|  | 第4節 | 表示移動操作一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 13 |
|  | 第5節 | 高度な表示移動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 14 |
|  | 第6節 | 編集モードへの移行・・・・・・・・・・・・・・・・ | 15 |
|  | 第7節 | 入力ボックス内での操作・・・・・・・・・・・・ | 16 |
| 第4章 | ファイル・モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 17 |
|  | 第1節 | ファイル一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 17 |
|  | 第2節 | 設定メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 18 |
|  | 第3節 | ファイル操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 18 |
|  | 第4節 | 重複ファイル名対策・・・・・・・・・・・・・・・・ | 21 |
| 第5章 | 編集モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 22 |
|  | 第1節 | モードの移行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 22 |
|  | 第2節 | 編集キー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 22 |
|  | 第3節 | カーソル移動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 23 |
|  | 第4節 | 編集メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 24 |
| 第6章 | 設定メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 25 |
|  | 第1節 | 設定メニューの呼び出し・・・・・・・・・・・・・ | 25 |
|  | 第2節 | バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 26 |
|  | 第3節 | カーソルの点滅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 26 |
|  | 第4節 | ソート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 26 |
|  | 第5節 | 単語分割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 27 |
|  | 第6節 | 7の点フィルタリング・・・・・・・・・・・・・・・・ | 27 |
|  | 第7節 | 点字レイアウト調整・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 27 |
|  | 第8節 | スペース短縮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 27 |
|  | 第9節 | 文字コード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 28 |
|  | 第10節 | バージョンとシリアルナンバー・・・・・・・・ | 28 |
|  | 第11節 | 出荷時の設定に戻す・・・・・・・・・・・・・・・ | 28 |
|  | 第12節 | モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 29 |
| 第7章 | VoiceOverと使う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 30 |
|  | 第1節 | VoiceOverとの接続・・・・・・・・・・・・・・・・ | 30 |
|  | 第2節 | VoiceOverの情報をOrbitで読む・・・・・ | 33 |
|  | 第3節 | Orbit側からVoiceOverを操作する・・・ | 34 |
|  | 第4節 | Orbitのキーボードを使ってVoiceOverでデータを入力する・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 38 |
|  | 第5節 | OrbitとiPhoneで電話をかける・・・・・・ | 40 |

|  |
| --- |
| 第1章.　導入 |

|  |
| --- |
| **第1節．ごあいさつ** |

Orbit 20 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本機は、米国 Orbit Research社が、多くの視覚障害関係者の協力を得て、「極力安価で世界中の視覚障害者に提供する」ことをモットーに開発した機器です。

アメディアでは、その日本向けローカライズを担当しています。

コストを最小限に抑えているため、いくつかの制限事項があります。その点をご了解の上、ご使用ください。

 2018年7月1日 株式会社アメディア 代表取締役 望月優

|  |
| --- |
| **第2節．制限事項** |

1. 接続制限
現在、本機は、パソコンと接続しても、日本語環境で使用できるスクリーンリーダーがありません。
そこで、標準添付のUSBケーブルは充電専用になっています。
ファームウェアのアップデート等でパソコンと接続するときは、別売のデータ転送用USBケーブルをご利用ください。
2. ファイル名の制限
ファイル名は基本的にアルファベットで記述ください。
日本語点字でファイル名を書くと、「か き さ す ょ 5の点」など、多くの文字がファイル名として使えない記号とバッティングしてしまい、その文字は「4・5・6の点」に変換されます。
3. SD カードの容量制限
本機の文章は、すべてSDカードに保存されます。
本機で使えるSDカードは、最大 32GB までです。
それ以上の容量のSDカードは使用できません。
4. 本書の制限
本日本語取扱説明書では、アメディアで動作確認した機能を掲載しています。
米国のサイトでの情報はさらに充実していますが、英語ホームページに書かれていることでも、日本の環境ではできないことが多々あります。
日本における最新の情報は、アメディアサイト内で随時更新して参りますので、そちらをご覧ください。

|  |
| --- |
| **第3節．保証について** |

本機の保証期間は、ご購入後1年間です。

保証期間中は、お客様にご使用上の不手際がない限り、
無償で修理致します。

弊社の保証の範囲は、いかなる場合でも、本機のご購入価格を上限とさせて頂きます。

|  |
| --- |
| **第4節．安全上のご注意** |

◎お使いになる前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ
正しくお使いください。

◎ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載して
いますので、必ず守ってください。

**【 警告表示 】**

|  |  |
| --- | --- |
|  | この表示の注意事項は、火災や感電などの大きな事故の原因をもたらさないための非常に重要な内容です。注意事項に従っていただけない場合には、火災や感電などのけがや死亡につながる事故を誘発する恐れがございますので、くれぐれも守って頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。 |
|  | この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故により、けがをしたり周囲の家財に損害を与えたりすることがあります。 |

**【 行為禁止記号 】**

　　　　　　　　

禁止　　分解禁止　　水濡れ禁止　　強制　　接触禁止

以下の注意事項を守っていただけなかったときは、保証の範囲外となります。また、備品の紛失も保証の範囲外です。



|  |  |
| --- | --- |
| **・水をかけたり、濡らさないでください。**水がかかる場所（浴室や台所など）で使ったり、ジュース類等の飲み物がこぼれて内部に水が入ると、火災や感電の原因になります。 | 水 |
| **・指定以外の接続ケーブルはお使いにならないでください。**指定以外の接続ケーブルをお使いになると、火災や感電の原因となり、また機器が故障します。 | 止 |
| **・雷が鳴りだしたら、本機を充電もとから切り離してください。**コンセントがつながっている状態で落雷にあうと、感電の原因となります。 | 止 |
| **・分解、改造しないでください。**内部に異物が入ると、故障や火災・感電の原因となります。　点検や修理はアメディアにご依頼ください。 | 分解 |



|  |  |
| --- | --- |
| **・落下させないでください。**高い所などから落ちた場合、破損する恐れがあります。又、破損時の破片などで、人体に傷害を与えることがあります。 |  |
| **・衝撃を与えないでください。**精密電子機器ですので、衝撃を与えると機能が失われることがあります。 |  |
| **・上から強く押したり、上に重いものをのせないでください。**上から圧力を加えたり、重いものをのせると破損する恐れがあります。 |  |
| **・日当たりのよい場所に放置しないでください。**故障の原因になります。 |  |

本機の故障や不具合などにより、発生したデータの消去など、付随的損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

|  |
| --- |
| **第5節．ユーザー登録** |

同梱の保証書兼ユーザー登録カードの内容に従って、

ユーザー登録をお願いします。

ユーザー登録がされていないと、本機のファームウェアが
バージョンアップされたり、新たなサービスが開始された時

など、お客様にアメディアからの情報が届かなくなります。

ユーザー登録は、お電話または以下のホームページからも
できます。

http://www.amedia.co.jp/product/usercard.html

|  |
| --- |
| **第6節．サポートについて** |

本機のサポートに関しては、 メーリングリストによるユーザー同士による相互サポートの場をご利用ください。

また、アメディアのウェブサイトにて、詳細な情報を公開しておりますので、そちらもご参考ください。

標準パックの方には、電話やメールでのご質問にお答え

する個別サポートがご利用になれます。

このサポート期間は、ご購入後2か月間です。

個別サポートは、別途ご購入いただくこともできます。

|  |
| --- |
| 第2章.　各部の名称 |

点字キーが並んでいる面を上にして、点字マスのある部分を手前にしておいた状態で説明します。

|  |
| --- |
| **第1節．背面** |

背面の左側がくぼんでおり、ここに3つの重要なボタンや
端子が並んでいます。

1. 電源ボタン
一番左側の小さな突起が電源ボタンです。
長く押していると、電源が入ります。
電源を切るときも、このボタンを長押しします。
電源を入れるときは、点字が表示されるまで、このボタンを押し続けてください。
なお、使用中にこのボタンを短く押すと、スリープ状態に入り、バッテリーが節約されます。
スリープ状態からは、このボタンを短く押すだけで復帰できます。
2. SDカード接続口
電源ボタンの右側の隙間が、SDカードをセットするための接続口です。
Orbit を単体で使用するときは、必ずSDカードをセットしてください。
ファイルの読み書きはSDカードから行われますので、
セットしていない状態では何もできません。
SD カードは、ギザギザのある面を下にして、斜めに
カットされた角を左手前にして後ろから差し込みます。
ゆっくり押し込むと、「カチッ」という感覚で固定されます。
外すときは、SDカードを一度奥に押し込むとロックが外れて引き出せるようになります。
3. USB接続口
SDカードの口の右隣に、USB接続口があります。
USBの接続は、充電するときに必須となります。
また、パソコンと情報のやり取りをするときにも使用されます。
小さい方のUSB端子を、2つの突起がある面を下にして差し込みます。

|  |
| --- |
| **第2節．上面に配置されたキー** |

1. 点字キー
奥側に並んでいる6つのキーが、パーキンス配列の点字キーです。
左側から、3の点、2の点、1の点、4の点、5の点、6の点です。
手前に3つのキーが並んでいます。
真ん中の横長のキーが、スペースキーです。
左側のキーが7の点、このキーは、バックスペースの
役割を担います。
右側のキーは8の点、このキーは、エンターキーの役割を担います。
2. 矢印キーとセレクトキー
Orbit のほぼ中央に、丸いキーを真ん中にして、左右・上下に小さな細長いキーがあります。
真ん中の丸いキーは、本取扱説明書の中では「セレクトキー」と呼んでいます。いろいろな用途で使われるキーです。　左右・上下のキーは、本取扱説明書の中では、それぞれ、左キー、右キー、上キー、下キーと呼んでいます。
それぞれのイメージに見合った操作が割り当てられています。

|  |
| --- |
| **第3節．点字のマスと表示移動キー** |

1. 点字のマス
手前に並んでいるのが点字のマスです。
20マスの表示部があり、5マス目、10マス目、15マス目の位置を、奥にある小さな突起で示しています。
2. 表示移動キー
点字のマスの両側に、真ん中が少しくぼんだ縦長のキーがあります。
よく触ると、真ん中でくびれていて、上下に分かれています。
このキーは、点字表示を移動させるキーです。
上のキーを押すと、前の20マスの表示になります。
下のキーを押すと、次の20マスの表示になります。
原則として、左右とも同じ機能です。
右利きの方は右側を、左利きの方は左側をご利用ください。

|  |
| --- |
| 第3章.　読みモード |

|  |
| --- |
| **第1節．電源投入** |

SDカードをセットしてOrbit の電源を入れると、初めて電源を入れたときは、SDカード上のファイルの一覧を表示します。

2回目以後は、前回の状態で起動します。

「前回の状態」とは、読みモード、編集モードまたはファイル・モードの場合があります。

|  |
| --- |
| **第2節．モード切替** |

ファイル・モードでは、上下のキーでファイルの一覧から開きたいファイルを選び、8の点またはセレクトキーでファイルを
開きます。

読みモードからファイル・モードに移行するときは、7の点を
押します。

|  |
| --- |
| **第3節．読み方** |

ファイルの中身を読み進んでいくのには、点字表示部の左右にある表示移動キーを使います。　左右とも同じ動作で、
下側を押せば次の20マス表示、上側を押せば前の20マスを表示します。

|  |
| --- |
| **第4節．表示移動操作一覧** |

|  |  |
| --- | --- |
| 表示を前後に移動 | 表示移動キー |
| 表示を1文字左へ | 左キーまたは スペース + 3の点 |
| 表示を1文字右へ | 右キーまたは スペース + 6の点 |
| 表示を1単語左へ | スペース + 左キー　または スペース + 2の点 |
| 表示を1単語右へ | スペース + 右キー　または スペース + 5の点 |
| 表示を1行上へ | 上キー　または スペース + 1の点 |
| 表示を1行下へ | 下キー または スペース + 4の点 |
| 前のページへ | 3の点 |
| 次のページへ | 6の点 |

備考: ページ区切りがないときは、上記の操作で1000マス分移動します。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルの先頭へ | 1の点 または スペース + に（1・2・3の点） |
| ファイルの最後へ | 4の点 または スペース + 4・5・6の点 |
| ファイル・モードへ | 7の点 |
| 設定メニューを開く | セレクトキー + 上キー |
| 設定メニューから戻る | 7の点 |

|  |
| --- |
| **第5節．高度な表示移動** |

|  |  |
| --- | --- |
| しおりの設定と解除 | スペース + m |

すでにしおりのあるところで上記の操作を行うと、そのしおりは解除されます。

|  |  |
| --- | --- |
| 前のしおり位置へ | 2の点 |
| 次のしおり位置へ | 5の点 |

しおり位置が表示マスの先頭にきます。　しおりがないときは、 「しおりはもうありません」と表示されます。

|  |  |
| --- | --- |
| ブロック中間移動前へ | 8の点 + 上キー |
| ブロック中間移動後へ | 8の点 + 下キー |

備考: 「ブロック中間移動」とは、次の起点の中間まで移動する方法です。

ファイルの先頭から「後へ」を実行すると、ファイルの真ん中に移動、そこから「前へ」を実行すると、ファイルの先頭から
4分の1に移動。　このようにして、領域を絞り込みながら自分の探したい内容を見つける方法です。

ブロック中間移動を実行すると、行頭に「○○く」と表示され、最初の操作実行地点から何パーセントの位置に移動したのかを示します。

|  |  |
| --- | --- |
| 検索 | スペース + f |

入力ボックスが開きます。
検索文字を入力して、8の点を押すと、検索が行われます。

検索しないで入力ボックスを閉じるときは、セレクトキーを押します。

|  |  |
| --- | --- |
| 前を検索 | 8の点 + 左キー |
| 次を検索 | 8の点 + 右キー |

上記2つの操作は、直前に検索した文字列で続行検索をする操作です。

文字が見つからないときは、 「見つかりません」と表示します。

この表示を消すには、7の点を押します。

見つからないときは、位置は動きません。

|  |
| --- |
| **第6節．編集モードへの移行** |

|  |  |
| --- | --- |
| 編集モードに入る | スペース + e |

現在読んでいるファイルを表示したまま、編集モードに移行します。

|  |  |
| --- | --- |
| 新規ファイル作成 | スペース + n |

新しいファイルを開いて、編集モードに入ります。

|  |  |
| --- | --- |
| 前回編集ファイルを開く | スペース + け |

直前に編集していたファイルを再び開きます。

編集モードから読みモードに戻るには、セレクトキーを2回続けて押してください。

|  |
| --- |
| **第7節．入力ボックス内での操作** |

検索、ファイル名変更、フォルダ作成などのときに現れる入力ボックスは、1行のみ入力できます。

また、入力ボックスを開いたとき、すでにつけられているファイル名や、前回入力した検索文字などが表示されます。
これを消したいときは、新たな文字を入力するか、または7の点を押します。

表示されている文字を生かして編集したいときは、右キー、
左キーでカーソルを移動させ、7の点でカーソルの前の文字を消したり、点字キーで新たな文字を入力したりして編集します。

以下、操作コマンドです。

|  |  |
| --- | --- |
| カーソルを1マス左へ | 左キー |
| カーソルを1マス右へ | 右キー |
| カーソルを入力ボックスの先頭へ | 上キー |
| カーソルを入力ボックスの最後へ | 下キー |
| バックスペース | 7の点 |
| 確定 | 8の点 |
| キャンセルして入力ボックスを閉じる | セレクトキー |

備考: ファイル名変更及びフォルダ作成の操作は、ファイル・モードから行います。

|  |
| --- |
| 第4章.　ファイル・モード |

Orbit を単体で使うときは、 SDカードが必ず必要です。

ユーザーが読んだり書いたりする情報は、すべてSDカードに保存されます。

単体利用のモードは、以下の4種類です。

* ファイル・モード
* 設定メニュー
* 読みモード
* 編集モード

|  |
| --- |
| **第1節．ファイル一覧** |

ファイルが保存されたSDカードをセットして、Orbit の電源を入れると、電源を切ったときの状態で起動します。

読みモードで起動したときは、7の点を押すと、ファイル一覧状態になります。

7の点はファイル一覧状態ではパソコンのバックスペースキーと同じように、サブフォルダ内から1つ上の階層に上がります。

ファイル一覧状態では、上または下のキーで一覧内を移動できます。　一覧状態から、8の点またはセレクトキーでそのファイルまたはフォルダを開きます。

右キーまたは左キーで、ファイルサイズや作成日付などのそのファイルに関する項目を見ることができます。

ファイル属性項目を見ているときに7の点を押すと、ファイル名の位置に戻ります。

|  |
| --- |
| **第2節．設定メニュー** |

セレクトキーを押しながら上キーを押すと、設定メニューが開きます。　メニュー表示状態で、上下のキーで前後の項目に移動できます。

なお、設定メニューの内容については、第6章を参照ください。

|  |
| --- |
| **第3節．ファイル操作** |

|  |  |
| --- | --- |
| 新規ファイル作成 | スペース + n |

新規ファイルを作成して、編集モードになります。

編集モードから抜けるには、セレクトを2回押します。

|  |  |
| --- | --- |
| 新規フォルダ作成 | スペース + o |

フォルダ名を入力するボックスが開きます。　フォルダ名を入力して8の点を押すと、フォルダが作成され、ファイル・モードに戻ります。

フォルダを作成したくないときは、セレクトキーを押して抜けてください。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルまたはフォルダの削除 | スペース + d |

選択されているファイルやフォルダを削除します。

フォルダは、空のもののみ削除します。

削除前に「動作確認」という確認メッセージが表示されます。

8の点またはセレクトキーで実行、7の点でキャンセルします。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイル名またはフォルダ名変更 | スペース + r |

現在のファイル名またはフォルダ名を表示して編集ボックスが開きます。

書き換えて8の点を押すと、変更されます。

セレクトキーを押すと、変更せずに戻ります。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルの切取 | スペース + x |

選択されたファイルを、クリップボードに切り取ります。

ファイルは削除されます。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルのコピー | スペース + c |

選択されたファイルを、クリップボードにコピーします。

ファイルは、削除されません。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルの貼り付け | スペース + v |

クリップボードのファイルを、現在の位置に貼り付けます。

クリップボードにファイルやフォルダがないときは、何も行われません。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルをマーク | スペース + m |

複数のファイルをまとめて処理したいとき、この方法でファイルに選択マークをつけて、削除、切取、コピーなどの一括処理の前準備をします。

|  |  |
| --- | --- |
| マークの解除 | スペース + m |

一度つけた選択マークを解除します。

選択マークは、ファイル名の先頭マスの7・8の点が浮き出すことで表現されます。

|  |  |
| --- | --- |
| ファイルプロテクトの設定と解除 | スペース + p |

ファイルにプロテクトをかけるあるいは、プロテクトを外す操作です。

ファイルのプロテクト状態は、ファイル名が表示されている状態で、右キーを押して確認できます。

|  |  |
| --- | --- |
| 編集モードに入る | スペース + e |

現在表示しているファイルの編集状態に入ります。

文字が入力される位置を示すカーソルは、7・8の点で示しています。

編集モードから抜けるには、セレクトキーを2回押します。

|  |  |
| --- | --- |
| 前回編集していたファイルを編集モードで開く | スペース + 1・2・4・6の点 |

直前に編集していたファイルを開きます。

セレクトキーを2回押すことで、ファイル・モードに戻ります。

|  |  |
| --- | --- |
| 先頭のファイルへ | スペース + l （1・2・3の点） |
| 最後のファイルへ | スペース + 4・5・6の点 |

ファイル名の先頭文字による検索機能あり。

|  |
| --- |
| **第4節．重複ファイル名対策** |

ファイルをコピーする際、コピー先のフォルダ内に同じ名前のファイルがあったとき、もともとのファイル名は変更せずに、

新たにコピーされるファイル名のボディーに数値が付加されます。

例:

book.brf

が存在するフォルダに、同じ名前のファイルをコピーしようとしたとき、

コピーされたファイル名は、 book1.brf

に変更されます。

|  |
| --- |
| 第5章.　編集モード |

|  |
| --- |
| **第1節．モードの移行** |

|  |  |
| --- | --- |
| 読みモードから編集モードに入る | スペース + e |
| 編集モードから読みモードに戻る | セレクトキーを2回 |

備考: 読みモードからファイル・モードに移行するときは、
バックスペースキーを押します。

|  |
| --- |
| **第2節．編集キー** |

表面奥よりに並ぶ6つのキーが、パーキンス配列の6点キーです。

左から、

3の点、2の点、1の点

2センチほど空いて、

4の点、5の点、6の点と並びます。

点字表示部のすぐ奥に並ぶ3つのキーは、
真ん中がスペースキー、左が7の点、右が8の点です。

8の点は改行、

7の点はバックスペースの役割となります。

セレクトキーを2回押すと、編集モードを終了して読みモードになります。

|  |
| --- |
| **第3節．カーソル移動** |

|  |  |
| --- | --- |
| 1文字前へ | 左キー |
| 1文字後へ | 右キー |
| 1単語左へ | スペース + 左キー |
| 1単語右へ | スペース + 右キー |
| 20マス左シフト | 表示移動キー上 |
| 20マス右シフト | 表示移動キー下 |
| 1段落前へ | 上キー |
| 1段落後へ | 下キー |
| 現在段落の先頭へ | スペース + 7の点 + 左キー |
| 現在段落の末尾へ | スペース + 7の点 + 右キー |
| 前のページへ | スペース + 7の点 + 上キー |
| 次のページへ | スペース + 7の点 + 下キー |

|  |
| --- |
| **第4節．編集メニュー** |

セレクトキーを押すと、編集に関する選択メニューが現れます。

このメニューの状態で、上下キーでいくつかの編集操作を選択できます。

また、編集メニューが表示されている状態で、点字1マスの

ショートカットでその操作を実行できます。

以下、操作内容とショートカットの一覧です。

|  |  |
| --- | --- |
| 編集モード終了　e | 編集モードを終了して、読みモードに移行します。 |
| マークをつける　m | 以下のコピーまたは切取を行うときは、カーソル位置とマークの間が操作対象ブロックになります。 |
| コピー　c | マークとカーソルの間のブロックを、クリップボードにコピーします。 |
| 貼り付け　v | クリップボードの内容を、カーソル位置に貼り付けます。 |
| 切り取り 　x | マークとカーソルの間のブロックを、クリップボードに切り取ります。ブロックはいったん削除されます。 |
| 検索　f | 検索したい文字列を入力して8の点を押すと、その文字列を検索します。 |

|  |
| --- |
| 第6章.　設定メニュー |

|  |
| --- |
| **第1節．設定メニューの呼び出し** |

Orbit には、表示項目、設定項目とコマンドを含むメニューがあります。　本章では、このメニューの主な項目を説明します。　そのほかの項目については、それぞれの該当箇所で
説明します。

設定メニューを開くには、セレクトキーを押しながら上キーを押します。　キーを離すと、メニューの最初の項目が表示されます。

次の項目を表示させるには下キーを、前の項目を表示させるには上キーを、押します。

設定メニュー項目の前後のオプションを表示させるには、
左または右キーを押します。

設定メニュー項目の、現在表示中のオプションを選択する
には、セレクトキーを押します。

選択中のオプションには、オプション名のマスの7の点と8
の点が表示されます。

（ただし、一部、7の点と8の点が表示されない場合もあります。）

設定メニューを閉じるには7の点を押します。

|  |
| --- |
| **第2節．バッテリー** |

メニューの最初の項目です。　バッテリーの充電状態を
パーセンテージで示します。

バッテリーの状態が低くなる（10%以下になる）と、20マス目の8の点がブリンクし、バッテリーの状態が低くなっていることを知らせます。

充電中の時は、左側に「充電中」と表示します。

|  |
| --- |
| **第3節．カーソルの点滅** |

エディットボックスまたは編集モードを使っているときにカーソルが点滅する時間間隔を、秒単位で設定・表示します。
選択中の値を表示するときは7の点と8の点も表示します。

オプションは、「0」 「1」 「5」 「15」 「30」と「60」です。

お好みに合わせてください。

0秒に設定すると、カーソルが点滅しないだけで、カーソルが7と8の点で示されます。

カーソルが点滅するとうるさいと感じたら、0に設定することをお勧めします。

|  |
| --- |
| **第4節．ソート** |

SDカード上のファイルの表示の順序を表示・設定します。

オプションは「名前」、「日時」、「サイズ」と「アクセス日時」です。

|  |
| --- |
| **第5節．単語分裂** |

点字行の最後に表示しようとしている単語の全ての文字が

入らないときは、その単語の一部を表示するかどうかを表示・

設定します。　オプションは「ON」と「OFF」です。

|  |
| --- |
| **第6節．７の点フィルタリング** |

NABCCコードのファイルの7の点をフィルタリングできます。デフォルトはONですが、それらの形式のファイルでよく現れる7の点を表示させたいときはOFFに変更してください。

ただし、ONにしても、点字ファイル形式によっては、7の点が消えない場合もあります。

|  |
| --- |
| **第7節．点字レイアウト調整** |

デフォルトはONです。　ONの場合は、印刷用の点字ファイルの改行コードが無視され、Orbit で読みやすくなるように、レイアウトが変更されます。　OFFにすると、点字印刷用の例えば38目の改行コードの入ったレイアウトで出力されます。

|  |
| --- |
| **第8節．スペース短縮** |

デフォルトはONです。　ONの場合、複数のタブコード、改行コードとスペースを一つに変更するので、空白が省略され、

読みやすくなります。

|  |
| --- |
| **第9節．文字コード** |

ファイルを保存する際の文字コードを設定・表示します。

オプションは、ANSIとUnicodeです。　Unicodeとして3つの

形式があります（リトルエンディアン、ビッグエンディアンとUTF-8）。

ファイルを作成する際にこのオプションが使用されます。

既に存在するファイルの文字コードを変更できません。

NABCCコードでファイルを作成する際には、ANSIをお使いください。

|  |
| --- |
| **第10節．バージョンとシリアルナンバー** |

バージョンとシリアルナンバーの項目は、それぞれ本機の

ソフトウェアのバージョンとシリアル番号を表示します。

|  |
| --- |
| **第11節．出荷時の設定に戻す** |

セレクトキーを押すと、出荷時の設定に戻ります。

|  |
| --- |
| **第12節．モード** |

Orbit の動作モードを表示・設定します。

* 単体モード　（ほかのデバイスと接続せずに使用するモード）
* Bluetoothモード　（Bluetoothを通じてほかのデバイスと接続して使用するモード）
* USBモード　（USBでほかのデバイスと接続して使用するモード）

の3つのモードがあります。

|  |
| --- |
| 第7章.　VoiceOverと使う |

Orbit をVoiceOverと使って、iPhoneやiPadなどが表示する情報を点字で読んだり、Orbit のキーボードでデータを入力することができます。

本書では、VoiceOverとの接続方法、VoiceOverが出力する情報を読む方法、Orbit でVoiceOverを操作する方法、VoiceOverにデータを入力する方法とOrbit とiPhoneで電話をかける方法を説明します。

**お断り:** VoiceOver のバージョン及び Orbit のファームウェアバージョンの組み合わせによっては、ここに記載する操作の一部ができないことがあります。

|  |
| --- |
| **第1節．VoiceOverとの接続** |

Orbit をVoiceOverと使うには、Bluetoothを通じて接続する必要があります。　初回は、以下の手順で接続してください。２回目以降は自動的に接続されます。

接続に不具合が起きたら、本節の接続手順と設定を、もう１度ご確認ください。

1. Orbit をつけます。
2. メニューを開き、BluetoothがONになっていることを確認します。　もしOFFになっていたら、右キーを1回押してから、セレクトキーを押してください。
3. メニューが表示されている状態で下キーを1回押し、ペアリングモードを確認します。　「自動」になっていると、ペアリングは簡単ですが、セキュリティーの理由で、「コード」に設定することをお勧めします。
「コード」に設定すると、最初にペアリングしようとするときにOrbitとiPhoneの画面にある数字が表示され、その数字が一致していることを、Orbit 側とiPhone側で確認しなければなりません。　2回目以降は、ペアリングは自動的に行われます。
4. 下キーを1回押し、エミュレーションがOFFになっていることを確認します。　ONになっていたら、OFFにしてください。
5. 下キーを１回押し、モードを確認します。　右キーを使って「Bluetooth モード」が表示されるようにしてから、セレクトキーを押します。　すると、遠隔Bluetoothが表示されます。　スペースキー4の点と7の点を同時に押すことによっても、Bluetoothモードにすることができます。
6. iPhone（またはiPadなど）をつけます。　iOS 10．3．3で説明しています。　もし接続ができず、あるいは、本取扱説明書とインターフェースが違ったら、まず、バックアップを取ってから、システムをアップデートしてください。
iOSのバージョンが10.1以下の場合には、エミュレーションモードをONにする必要があります。
7. 画面のロックを解除します。
8. 「設定」を開き、順に「一般」「アクセシビリティー」「VoiceOver」「点字」に入ります。
9. もしiPhone（またはiPadなど）の設定でBluetoothがOFFになっていたら、BluetoothをONにするかどうかを聞いてくるので「はい」ボタンを押します。　こうすると、自動的にBluetoothの設定を変更してくれます。
10. 「点字」に入るといろいろな設定が表示されます。その中で、次の設定項目を確認します。
11. 点字ディスプレイ出力も点字ディスプレイ入力も「8点式」になっていなければ「8点式」に変更します。　変更するには、項目を2回タップします。　こうすると「1級英語点字6点式」 「1級英語点字8点式」 「2級英語点字」が表示されるので「1級英語点字8点式」を選択して「点字」に戻ってください。日本語で使う場合は「2級英語点字」を設定しないでください。
12. 「状況セル」と「Nemesコードの使用」はOFFのままでいいと思います。　iPhoneなどの画面から文字を入力しない場合は、オンスクリーンキーボードもOFFのままでいいです。
13. 上記の画面の最後の「点字ディスプレイを選択」でOrbitが現れず、いくら待っても「進行中」と表示されていれば、Orbit がついていることを確認してください。　iPhoneなどの準備に長い時間がかかると、Orbit が消えます。　ついたら、もう一度Bluetoothモードにしてください。　すると、iPhoneなどの画面にOrbit とそのシリアルナンバーが表示され「ペアリングされていません」というボタンが現れます。
14. Orbit のシリアル番号などを示しているボタンをダブルタップします。　少し待つと、Orbit が一定の数字を表示します。速くその数字を確認しないと、ペアリングが失敗します。またそのままにしておくと、約1分後にOrbitの電源が切れてしまいます。
15. コードの確認。　Orbit が表示している数字を読み、iPhoneなどの画面のピンが読まれるようにします。
コードが一致したら、すぐにOrbit の8の点を押し、iPhoneなどの側でも「ペアリング」をダブルタップします。
16. Orbit Reader ... 接続中と表示されたら、ペアリングは完了です。

|  |
| --- |
| **第2節．VoiceOverの情報をOrbitで読む** |

ペアリングが完了すると、VoiceOverが発声する内容はOrbit上でも表示されます。　内容が点字の20マスで表示できないときは、Orbit の行を上下にスクロールさせることによって全体の内容を読むことができます。

ただ、例えば 「開くにはダブルタップします」 などという、コマンドの実行方法の説明もアナウンスするように設定されていると、Orbit の表示は、コマンド名、コマンド説明、コマンド名の順に、速く変わってしまいます。　この状態でOrbit の行を上下にスクロールさせようとすると、その操作はVoiceOverに転送され、選択中のコマンドが変わってしまいます。

この問題を防止するには、「設定」 「一般」 「アクセシビリティー」 「VoiceOver」 「詳細度」 に入り 「ヒントを読み上げる」をOFFにすることができます。　ヒントは役に立つこともあるので、よく検討してから決めてください。

ヒントを読み上げないようにした状態では、Orbit の行を上下にスクロールさせたときに、予想外の操作が行われませんが、例えばメニューを下から上に、Orbit の側でスクロールして表示させると、スキップされるコンテンツが出る場合があります。

例えば、「ミュージック」 「メール」と、Orbit 側でスクロールすると、音声では未開封のメールの数を読み上げますが、Orbitでその情報を表示させるためには、1回下に戻らなければなりません。

|  |
| --- |
| **第3節．VoiceOverとの接続** |

Orbit側からVoiceOverを操作することができます。

そのためには、様々なコマンドが用意されています。

既に説明した通り、Orbit の現在行を変えることで、例えばメニューで現在選択されているコマンドを変更できます。

Safariを選択してからセレクトキーを押すと、Safariが開き、行を変えながら、表示されるページを読むことができます。

開きたいリンクの文字を表示させてセレクトキーを押すと、

そのリンク先のページが開きます。

VoiceOverの画面を消すと、Orbit は単体モードに戻ります。しかし、VoiceOverが再びつくと、Orbit はBluetoothモードに切り替わります。　万一Bluetoothモードに切り替わらず、あるいはiPhoneなどのデータを表示しなくなったら、ペアリングの画面の指示に従って、1回Orbit を忘れさせて、再びペアリングしてみてください。　Orbit からiPhoneなどを起動することはできません。

以下のコマンドが用意されています。

|  |  |
| --- | --- |
| 前の項目に移動 | スペースを押しながら1の点を押す |
| 前の項目に移動 | 左キー |
| 次の項目に移動 | スペースを押しながら4の点を押す |
| 次の項目に移動 | 右キー |
| 点字を左に移す | スペースを押しながら2の点 |
| 点字を右に移す | スペースを押しながら5の点 |
| 最初の項目に移動 | スペースキーと1、2、3の点を同時に押す |
| 最後の項目に移動 | スペースキーと4、5、6の点を同時に押す |
| 1ページ右移動 | スペースキーと1、3、5の点を同時に押す |
| 1ページ左移動 | スペースキーと2、4、6の点を同時に押す |
| ステータスバーに移動 | スペースキーとs（2、3、4）を同時に押す |
| 前のローター項目を設定 | スペースキーと2と3の点を同時に押す |
| 次のローター項目を設定 | スペースキーと5と6の点を同時に押す |
| カレントロータ項目の上の状態を設定 | スペースキーと3の点を同時に押す |
| カレントロータ項目の下の状態を設定 | スペースキーと6の点を同時に押す |
| タスクスイッチャーを開く | スペースを押しながら、速く2回1、2と5の点を押す |
| 前のページに移動 | スペースキーと3、4、5、6の点を同時に押す |
| 次のページに移動 | スペースキーと1、4、5、6の点を同時に押す |
| 通知センターに移動 | スペースキーと4、6の点を同時に押す |
| コントロールセンターに移動 | スペースキーと2、5の点を同時に押す |
| 選択中の項目から表示する | スペースキーと「ち」（1、2、3と5の点）を同時に押す |
| トップから表示する | スペースキーと「そ」を同時に押す |
| 現在位置、ページまたは列の番号を表示する | スペースキーと「や」を同時に押す |
| 「バック」ボタンを押す | スペースキーと「b」を同時に押す |
| デリートキーを押す | スペースキーと「d」を同時に押す |
| デリートキーを押す | スペースキーと7の点を同時に押す |

注意：文字が消えても、Orbit の表示がすぐに更新されなかったり、Orbit が表示しなくても以前入力したデータが残ったりします。

|  |  |
| --- | --- |
| エンターキーを押す | スペースキーと「e」を同時に押す |
| エンターキーを押す | スペースキーと8の点を同時に押す |
| 点字出力を切り替える（6点式、8点式、2級英語点字） | スペースキーと「g」を同時に押す |
| ホームボタンを押す | スペースキーと「h」を同時に押す |
| スピーチをON/OFFと切り替える | スペースキーと「m」を同時に押す |
| タブキーを押す | スペースキーと「t」を同時に押す |
| コンテキストメニューを呼び出す | スペースキーと3、5、6の点を同時に押す |
| 点字入力を切り替える（6点式、8点式、2級英語点字） | スペースキーと2、3、6の点を同時に押す |
| 音量を上げる | スペースキーと3、4、5の点を同時に押す |
| 音量を下げる | スペースキーと1、2、6の点を同時に押す |
| スクリーンカーテンをON/OFFと切り替える | スペースキーと1、2、3、4、5、6の点を同時に押す |
| 全て選択 | スペースキーと2、3、5、6の点を同時に押す |
| 切り取り | スペースキーと「x」を同時に押す |
| コピー | スペースキーと「c」を同時に押す |
| 貼り付け | スペースキーと「v」を同時に押す |
| 入力を元に戻す | スペースキーと「z」を同時に押す |
| 入力をやり直す | スペースキーと2、3、4、6の点を同時に押す |
| 取り出しキーを押す | スペースキーと1、4、6の点を同時に押す |
| 現在項目のアナウンスをトグル | スペースキーと「n」を同時に押す |
| キーボードヘルプ | スペースキーと「k」を同時に押す |
| 前のコンテナーに移動 | スペースキーと1、7の点を同時に押す |

|  |
| --- |
| **第4節．Orbitのキーボードを使ってVoiceOverでデータを入力する** |

Orbit でVoiceOverにデータを入力するために、メモを書いてみましょう。

1. iPhoneをつけて、画面のロックを解除します。
2. Orbit の電源も入れます。
3. Orbit との接続準備が済んでいれば、自動的につながるので、それまで数秒待ちます。　この後Orbit 側で操作します。
4. スペースキーを押しながらhを押します。　これでiPhoneのメニューが開きます。
5. 左キーや右キーで「メモ」まで移動してから、セレクトキーを押します。　これでメモアプリが開きます。
6. 左キーで「戻る」ボタンを捜し、セレクトキーを押します。「戻る」ボタンが出ないときまでこの手順（6の手順）を繰り返します。　スぺースキーと「b」を押すことによって同じ操作ができます。
7. 左キーと右キーでメモのフォルダを選んでからセレクトキーを押します。
8. 右キーで「新規メモ」ボタンに移動し、セレクトキーを押します。
9. 好きな文書を書きます。　スペースキーを押すたびに、iPhoneは以前書いた部分をアナウンスします。
10. 書き終わると、右キーまたは左キーで入力モードから出ることができます。
11. 左キーで「完了」ボタンを探し、セレクトキーを押します。
12. 左キーと右キーで今日の現在の時間のメモまで移動し、内容を確認します。

|  |
| --- |
| **第5節．OrbitとiPhoneで電話をかける** |

電話をかけるには、VoiceOverとOrbit がつながっている状態で、以下の手順で操作します。

1. スペースキーを押しながらhを押します。　これでiPhoneのメニューが開きます。
2. 左キーや右キーで「電話」まで移動してから、セレクトキーを押します。　これで電話アプリが開きます。　電話の以前の状態によって操作が少し違いますが、キーパッドが既に選択されているとします。
3. 左キーと右キーで各数字を選択できるので、必要に合わせて一つ一つを選んだあとにセレクトキーで入力します。一つ間違えるときは、「削除」ボタンを選択しセレクトキーを押すと、最後の数字を削除できます。
4. 左キーで「電話番号」のテキストフィル度まで移動し、電話番号を確認します。
5. 右キーで「発信」ボタンに移動し、セレクトキーを押します。すると、電話がかかります。
6. 自動的に「通話終了」ボタンが選択されるので、セレクトキーを押すだけで、電話を切ることができます。